

## 緒 言

奈良国立文化財研究所も開設以来もう九年経った。そんなに永い歳月ではないが、ちよつとふり返つてみると、この九年の間に案外多くの調査や研究をしているのに驚く。その主要なものは毎年出版される奈良国立文化財研究所学報（既刊十冊）に収められているので、その大様を知ることができるが、その他のものは、あるいはその研究がかなり永年に亘つていて、まだ発表の機運に恵まれないとか、あるいはその研究があまり地味すぎて、なかなかふつうの出版物として出し難いとかいつたような理由で、いままなお各研究室にねているものがある。もちろんそれ等のことも一応はいままでに発行された三冊の奈良国立文化財研究所年報に報告されているが、やはり報告は報告だけのことに終つて、そのほんとうの内容なり価値なりについては、まだほとんど世間に知られていないのが現状である。そこで本三十五年度の年報では、いままでの各研究室の報告をもうすこし詳しくすると共に、その一部をごく短い論文形式にまとめて、とにかく当研究所の仕事の様子をなるべくひろく、わかり易く報告することにした。しかしこれ等の各報告は、なんといつてもひじょうに限られた紙数の中で書かなければならないものであるから、その実際の調査ではゆうに数年を費したような社寺のことも、ただその社寺の名称だけをかけたに過ぎないようなところが多く、あるいはその研究対象になつた社寺としては物足りなく思われるところがあるかもしれないが、それはまた他日を期したいと思う。

なおこれは何も本三十五年度だけに限つたことではないが、当研究所が平城宮跡発掘調査その他の調査なり研究なりをおこなうに當つて、奈良の平城宮跡関係の方々や、また各地のたくさんの社寺関係の方々からなる御協力を得ていることは、国の文化財保護政策の上にとんなに大きな力になつていくかしのけいと思ふ。しかしわが国の文化財のことはまだまだこれからしなければならないことがたぐとさんあるのであるから、なお今後一層の御協力をお願いしたいと思ふ。